

足利風 -ashikaga-fu

2021
6月号
Vol.74



水彩画：川島直人

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00～19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- * 特集！
「許すことが・・・愛」
- * TOPICS
「十年は通過点に過ぎない」
- * 私のボランティアことはじめ
「田中正造と足利
坂原 辰男」
- * サークル紹介
「足利俳句会」
- * INFORMATION

特集！ 「許すことが・・・愛」

「公益を知らぬ者、経済を知らぬ」とは、百年前、渡良瀬を駆けていた田中正造の名言である。コロナ禍の時代の後にはボランティア・NPOの時代となり、公益の倫理が問われる時代となる。企業の持続的発展のためにも、企業の社会的責任（CSR）がキーワードとなるということである。



免疫学の多田富雄さんの言う“寛容（トレランス）”という言葉は、社会が再生するための基盤に必須の容認することを意味する。経済・効率至上主義の現代人間社会の変革をせまるパンデミック（疫病の世界流行）は、日本の今後を憂えていた多田さんたちの予言を現実のものにしている。「日本人の品性が地に堕ちつつある」と憂えていたのは、他者の存在をないがしろにする・他者の存在を無視する風潮に警鐘を鳴らしていたのではないか。

多田富雄さんは「・・・しかし、僕は絶望はしておりません。長い闇の向こうに、何か希望が見えます」。そこには“寛容の世界”が広がっている。予言です・・・と語った。対談相手の水俣・石牟礼道子さんは「希望という言葉のもとには、“愛”があるのです」と語る。それは石牟礼さんが、差別されもがいている水俣病患者さんのひとりから「道子さん、チツソを許すことにしました。“憎む”ということは自分が苦しむこと。その人たちを憎めば“きつかばい、自分が”・・・許すことにしたら、楽になった」と聞いた経験からだった。それが“愛”ということ。さらにその患者さんは「心は“愛”があれば治りますもんな・・・」と。人は誰でも、目には見えない大なるものに自分の生き方が支えられている、と心から感じることもある。“他力（たりき）”は真の絶望から発する思想である。

(M生)

* TOPICS * 「十年は通過点に過ぎない」

「東日本大震災十周年展」が3月8日～11日足利市民活動センターで開催された。震災当日から今日まで被災地と関わり続けている“がんばろう！東北 応援プロジェクト足利風”の主催だ。宮城・山元町の被災者は「3月11日は、悲しい出来事を思い出し、思い切り泣いていい日」と語った。福島 of 被災者は「福島の被害は現在進行形です」と語った。私たちは、被災者・被災地にこれからも、寄り添いつづけなければ・・・と、あらためて心から思った。



私のボランティアことはじめ

「田中正造と足利」

坂原 辰男（田中正造研究家）

田中正造と言えば足尾鉍毒事件の谷中村強制破壊を思い起こす人が多いことでしょう。渡良瀬川下流に遊水地を造り、鉍毒を沈澱させて解決したことが足尾鉍毒事件であると、一般的に認識され、足利とはあまり関わりがないと思われがちです。しかしながら、実は、田中正造と足利は密接なつながりがあります。正造の妹（リン）は原田進三郎と結婚し、進三郎の長男（定助）は足利の産業発展に貢献しました。同時に原田家は田中正造の県会議員や国会議員の生活に対して経済的な面で支援をしました。また、鉍毒事件の渡良瀬川周辺の被害地でもある足利は救援活動も盛んに行われ、その一翼として足利友愛議団を結成し荻野萬太郎や原田定助が中心になり鉍毒事件の救済活動を展開しました。



その他、足利市川崎町にはキリスト教の婦人矯風会で活躍した潮田千勢子を偲んだ石碑があります。千勢子は、婦人矯風会の会長として鉍毒被害民の救済活動にキリスト者として熱心に活動しました。正造は千勢子の活動に共鳴し、千勢子が亡くなった時の追悼演説で号泣したという事実もあります。

また、平成になってから田中正造の墓が足利市久野地区野田の壽徳寺にあると公になりました。久野地区は大変な鉍毒被害地だったため、室田忠七が中心となり足尾銅山の操業停止を訴えて請願運動に参加しました。その行動は「押し出し」と言いますが、第4回目の押し出しで逮捕された人の中には久野地区の被害民もいました。被害民の運動が盛んだったのは、正造が被害運動を裏面から支援し、明治政府と闘い、鉍毒で汚染した田畑を回復すべく運動するという情熱があったからです。

このように足利は田中正造にとっても鉍毒事件にとっても関係の深い地域です。

サークル紹介

★足利俳句会

楷樹主宰の久保田豊秋さんを講師に迎えた山前俳句会が前身です。特色は毎回「詠込」という一文字の兼題を入れた句を作ることです。文部大臣賞受賞者・俳句初心者・九十歳代の方など、様々な方が和気あいあいと俳句を楽しんでおります。毎月両毛新聞に内容が掲載されています。総勢十六名、一人一人が先生で生徒です。

※毎月第四水曜日 13時～16時 月会費：百円

入退会随時 於：足利市地域福祉会館一階和室

連絡先：清水 090-6922-7575 koichi2237@gmail.com



* INFORMATION *

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和3年6月19日（土）13：00～15：00

* 本 : 「辛酸」(城山三郎)

* 案内人 : 坂原 辰男 さん

★令和3年7月10日（土）13：00～15：00

* 本 : 「ぼんやりの時間」(辰濃和男)

* 案内人 : 鈴木 光尚 さん

■参加費：無料

■会場/問い合わせ：足利市民活動センター ☎0284-44-7311

☆茶論

★令和3年6月26日（土）13：00～15：00

* 語り部 : 小林 一行 さん

* テーマ : 「足利歴史・文化探訪」～足利の歴史と文化に光をあてる～
歴史と文化のまち”と言われて久しい足利。足利という街に、古代から流れつづける“伏流水”とは何か？ 万葉集にゆかりの“足利思”をその語源とする「ボランティア・グループあどもい」の代表として、若者たちにその思いを引き継ごうと日々活躍している小林一行さんに、その幅広い見識と足利の歴史・文化への思いを披瀝していただきます。ぜひ、お気軽にご参加ください。

■参加費：無料

■会場/問い合わせ：足利市民活動センター ☎0284-44-7311

☆企画展(交流コーナー)

* 5月24日（月）～6月 3日（木）

泥仏と絵・本・書展

* 6月 7日（月）～6月17日（木）

彩美会水彩画展

* 6月22日（火）～7月 1日（木）

あどもい展

* 7月 5日（月）～7月15日（木）

絵本庵展

* 7月20日（火）～7月29日（木）

児童養護施設イスター・ガールズの歩み展

※展示時間・・・10：00～19：00 ただし最終日は15：00まで

(土・日・祝日は休館日)

☆相談室&講座

* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 14：00～16：00

* 講座 = 毎月1回

※詳しくは、別紙参照

編集後記

何かと不便の多い今日、いかがお過ごしでしょうか？この状況が少しでも早く解消され、平穏な日々を取り戻せるよう、今も手洗い・うがい・マスクを心掛けています。不安や疲れなど未だに残っていますが、皆様の元へ笑顔が戻りますように。
(すずうさぎ)